



平成16年6月10日

各位

会社名 株式会社セック
代表者名 代表取締役社長 矢野 恭一
(コード番号: 3741)
問合せ先 取締役経理部長 秋山 逸志
(TEL. 03-5458-7727)

平成17年3月期の業績見通しについて

平成17年3月期(平成16年4月1日~平成17年3月31日)における当社の業績見通しは、次のとおりであります。なお、平成16年5月6日に発表した業績見通しからの変更はありません。

【通期】

(単位: 百万円・%)

項目	決算期	平成17年3月期 (計画)		平成16年3月期 (実績)			
		構成比	前年比	構成比	前年比		
売上高		3,000	100%	106.6%	2,813	100%	117.5%
経常利益		520	17.4%	104.1%	500	17.8%	137.0%
当期純利益		284	9.5%	103.8%	273	9.7%	173.1%
1株当たり当期純利益		113円73銭		124円68銭			
1株当たり配当金		20円		20円			

- (注) 1. 平成16年3月期の1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式数により算出し、平成17年3月期の1株当たり当期純利益は公募株式数を含めた予定期末発行済株式数2,500,000株により算出しております。
2. 平成16年3月期の数値につきましては、平成16年5月20日開催の取締役会で承認されておりますが、株主総会の承認前です。

ご注意: この文章に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した結果であり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

【平成 17 年 3 月期業績見通しの前提条件】

(1) 売上高

高付加価値化と効率化で、概ね（社員数伸び率 + 2 %）の売上高伸び率で計画しております。

(2) 売上原価

製造直接費

売上高計画時の仕入高、外注費、プロジェクト経費は、各事業分野別売上高比率で按分して配分し、その後、各事業分野毎の事情を加味して調整しております。製造直接人件費は、実績値に対して製造部門の延べ社員数増加率で増加すると想定しております。その結果、製造直接費は 1,589 百万円を計画しております。

製造間接費

製造間接プロジェクト経費、製造間接人件費、減価償却費、事務・消耗品費、その他経費は、各々の実績値に対して、製造部門の延べ社員数増加率で増加すると想定しております。家賃は、家賃総額見込みを全社員に占める製造部門社員数で按分して配分しております。その結果、製造間接費は 302 百万円を計画しております。

(3) 販売費及び一般管理費

労務費、減価償却費、事務消耗品費、旅費交通費、その他経費は、各々の実績値に対して、間接部門の延べ社員数増加率で増加すると想定しております。その他外注費、採用費、研究研修費、研究開発費は、各々の実績値に各項目毎の計画値を加味して調整しております。手数料は、実績値に株式公開関連及び株式公開企業となることによって追加となる手数料を予算化して加算しております。家賃は、製造原価計算の際に求めた家賃総額見込みから製造原価配賦分を除いた残余としております。その結果、販売費及び一般管理費は 558 百万円を計画しております。

(4) 営業外収益・費用

営業外収益

受取利息、受取配当金、保険配当金、雑収入、駐車場収入は、各々、実績値を延長しております。その結果、営業外収益は 4 百万円を計画しております。

営業外費用

支払利息、駐車場費用は、各々、実績値を延長しております。平成 17 年 3 月期（予想）に、株式公開に関連する費用 13 百万円と新株発行に関連する費用 18 百万円を見込んでおります。その結果、営業外費用は 33 百万円を計画しております。

ご注意：この文章に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した結果であり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

(5) 特別損益

特別利益

平成 17 年 3 月期（予想）に、本社拡張で発生する特別損失に見合う有価証券売却益 22 百万円を見込んでおります。

特別損失

コンピュータ関連設備の設備廃棄分、及び平成 17 年 3 月期（予想）の本社拡張に伴う特別損失（現状復旧工事、二重家賃など）を合わせて、25 百万円を見込んでおります。

以上

ご注意：この文章に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した結果であり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。